

私のおすすめスポット

会員 細野美恵子（燕市在住）

それは、碑（いしぶみ）やモニュメント。資料館の近くには、分水路建設時の石碑が多くあり、友の会の皆様には当たり前のことかもしれませんが、私にとって、それは、人間の持つ尊い精神性を見失ってしまうのでお勧めなのです。

今回は特に米納津隕石落下地記念碑をご紹介します。今年9月に米納津隕石里帰り展のイベントがあり、普段は東京国立科学博物館展示の本物が、里帰りとして燕市役所つばめホールで見ることができました。今から約180年前、宇宙からの長い旅の末に、よりによって、当地に落ちて来たとは本当に不思議なことです。隕石落下もさることながら、そのことを忘れることのないように、後世へ伝える使命感を持つ人間の行為こそ強く心を打たれます。約50年前、富永地区の土地提供と、地元の天文研究家・故・草野磐氏が建立されたとのこと。孤独な隕石へのまなざしや、遭遇した喜びや驚き（迷惑？）も含めてロマンすら感じてしまいます。

7年前の市町村合併時、100人委員会の一員として、市内を巡回した時、吉田富永の田んぼの中に見えるか見えないか、たよりなさそうな記念碑を初めて見ました。その上、その隕石のレプリカを、吉田栗生津にある長善館に展示されているのも何度か見ました。

碑の最も神聖なものは、お墓と思いますが、いつも通る道端のお地藏様や、学校の庭にある二宮尊徳の像や、公共の建物前にあるブロンズやステンレスのモニュメントや、公園やキャンパスなどにある石碑や彫刻など 挙げたらきりがありません。町でそういう石碑やモニュメントに出会えたら、少し立ち止まって、思いをはせてみてはいかがでしょうか？



米納津隕石落下地記念碑（燕市）

「大河津分水講演会 2013」開催～メディアシップ～



昨年の燕市に続く2回目の大河津分水講演会を、分水の恵みを受けて発展する県都新潟市で、10月27日（日）に開催しました。心配された台風27号の影響もなく、新潟日報メディアシップ日報ホールは約200人もの聴講者で埋まりました。

早川理事長の講演「友の会の目指すもの」に続き、「東日本大震災、近年の豪雨災害の教訓に学ぶ」と題して、元国土交通省水管理・国土保全局長の関 克己氏にご講演いただきました。

平成16年水害後の河川整備やソフト対策により、雨量が2倍の平成23年豪雨被害を防いだ五十嵐川等も引合いに、百数十年に一度のレベルで整備したハードで対処できない更に大きい洪水や津波に対しては、その災害リスクを受け入れつつ、被害を最小化する方法をハード・ソフト両面から構築するという方向に、我国の防災対策が変わろうとしているとのことでした。

信濃川河川事務所の協力で、会場入り口に展示した明治38年実測図に描かれた大河津分水計画図面の周りには、その精密さに感嘆し、スタッフに質問しながら熱心に見入る方が大勢おられました。（事務局）



大河津分水講演会を終えて

10月27日新潟市のメディアシップの日報ホールを満員の観客で埋めて、わが信濃川大河津資料館友の会主催の大河津分水講演会は成功裡に行われた。友の会としては年中行事のうちのメインイベントを無事こなししたところである。

それはそれで“良かったこと”ではあるが、チラッと頭をよぎるものがある。“どうしてこんなことをやるんだろう？”と思う方もあるいは居られるかもしれない。そう思うと、数年前の、NPOにするか、いやしないのか、議論したあの頃が思い浮かんでくるのである。

ご記憶の方々も多いではあろうが、友の会は平成14年の春、資料館のリニューアルとほぼ同時に始まった。最初は多分小林 清燕市長（当時）のお声掛けで、あっという間に400人を越える会員が集まった。気がついたら私は会長になっていた。でも会長らしい仕事はほとんど無かった。全ての行事、会計も含め、信濃川河川事務所の委託を受けて資料館に詰めていた北陸建設弘済会の職員がやってくれ、私はいわば、“単なるお飾り”だった。

事情は少しずつ変わった。今から5年ほど前からだったと思う。北陸建設弘済会などに頼らずに自分で自分のことをする団体になりなさい、という声が少しずつ強くなってきた。2008年度、そのためには友の会をNPO法人にするしかないか、と役員会、総会で議論した。必ずしも賛成する人は多いとは言えなかった。2009年度の初め、友の会のNPO化は、まだ時期尚早と思えた。そこへ当時の政権による“仕分け”の問題が起こり、北陸建設弘済会は資料館の運営から手を引くことになった。2009年度から2010年度にかけて友の会は何度も会議を重ねた。そして何回も規約を改正して組織を強化していった。つまりは自主自立の方向へ、NPO化の方向へ、舵を切りかけていた。正会員に個人会員と団体会員の別を設けた。顧問も作った。周辺の4市（新潟、長岡、三条、燕）の市長さんには特別顧問になっていた。この特別顧問を設けるについては、資料館を支援する力を強化することになるとして、信濃川河川事務所のご賛同を頂いた。新潟市長にお願いに行く時には当時の澤野久弥所長が、また三条市長の時には清水 晃所長が、まるで私の手を引くかのように、一緒に行っていたのであった。

そして2011年度の年次総会でNPO化への路を進むことが承認された。それからは会議、会議のラッシュであった。7月30日設立総会を開き、9月にはNPO法人認証の書類を整えて燕市に提出した。2011年11月、晴れてNPO（特定非営利活動）法人となったのである。

NPO法人とは何か。まず社会の発展に寄与するような活動することである。友の会の場合はまず信濃川とか大河津分水、資料館に関することである。そして元来ボランティア的な活動をする会である。従って、会員の自主自発的な活動が基本である。そういう意味ではどんな活動（例えば文化活動）でも大事である。一方で大河津分水や資料館を支える活動も当然大事である。そこで自然に、地域社会の人たちとつながりを深める活動、その1つとして大河津分水講演会が企画されたのである。第一級の講師を迎えての講演会、しかも流域の大都市新潟市で行う催し、わがNPO法人が胸を張って自慢できる行事なのである。



イベント案内

第3回ガイド研修「かわはく」を視察します

埼玉川の博物館「かわはく」でボランティアガイドの先進例を学習します。資料館運営員は出来るだけ参加されるようお願いします。なお、定員に若干余裕がありますので、参加を希望される方は事務局までお知らせください。定員になり次第締切ります。（事務局）

日時：平成25年12月1日（日） 7:30～18:30

集合：7:20 大川津ふれあいセンター集合

場所：埼玉県立 川の博物館

埼玉県大里郡寄居町小園 39

TEL 048-581-7333

参加費：1,000円（昼食代）

申込締切：11月26日（火）

※参加希望者は事務局まで申し込んでください。

平成25年度第2回役員会を開催します

平成25年度第2回理事会を開催します。理事及び監事、顧問の参加をお願いします。（事務局）
主な議題

- ①平成25年度事業実施状況及び会計中間報告
- ②平成26年3月までの事業の見通し
- ③平成26年度に向けて
- ④その他

日時：平成25年12月7日（日） 15:30～17:00

場所：大河津資料館 2F 多目的ホール

懇親会：「やま友」燕市新町 2-7-1

TEL 0256-97-3102

参加費：4,000円

連絡締切：11月26日（火）

※参加の可否は事務局までお知らせください。

第2回ガイド研修を実施しました

8月31日(土)8:30～12:00 参加者：11名

第2回ガイド研修は、新たに導入されたスマートフォンやタブレット端末を用いた「信濃川大河津資料館かんたんガイド」について、開発担当の清水保会員から指導を受けました。

ご自身のスマートフォン等で各階に掲示してあるQRコードを読み取ってホームページに接続すれば、解説を見ることが出来ます。みなさんも是非お試しください。(事務局)



東日本大震災被災地を視察してきました

9月5日(土)～6日(日) 参加者：32名

あの3.11から2年半。実際にこの目で見、直に語り部の話を聞いて、大震災がもたらしたものを学んできました。

被災地は、瓦礫こそ綺麗に片付いたものの、草藪には家々の土台がそのまま。復興計画すら固まっていない自治体もあるそうです。しかし、語り部や仮設市場のみなさんはとても前向きでした。一日も早い復興を祈らずにいられません。

津波に流され、数日後に気付いたらベットの上だったという語り部大島さんが所属するみらいさぼーと石巻のみなさんに、お茶を楽しむ会などで集まった募金に、今回の参加者の募金を合わせて4万6千円を寄付してきました。(事業部)



九死に一生を得た大島さん(石巻市)

視察場所

【9月5日(土)】

- ①名取市閑上地区
 - ・語り部菊池訓子さんの現地案内
 - ・閑上さいかい市場
- ②石巻市プレナみやぎ
 - ・語り部大島光春さんの講話
 - ・語り部による現地案内

【9月6日(日)】

- ①航空自衛隊松島基地被災状況視察
- ②松島観光(島々の津波被害)
- ③国宝瑞巖寺視察(参道杉林の被害)



松島にて・津波に耐えた松を背に

サケまつりを開催しました

10月5日(土)11:00～13:00 スタッフ：17名 お客様：150名

秋晴れの下、恒例のサケまつりが開催され、今年も大河津分水のサケのみそ汁が振る舞われました。魚沼漁協分水支部中山さんのご協力により、大鍋二つのサケ汁とコシヒカリおにぎり、お手製みそ漬けを特設テントでいただきました。今年は分水地区社会福祉協議会の可動堰現場見学会一行など、大勢が詰めかけ、150人分はあっという間に完食。食べ損ねた方もおられたようです(事業部)



信濃川教養講座「私たちの地域の液状化」を開催しました

10月5日(土)13:00～15:00 参加者：21名

応用地質(株)の小野寺 功さんから、「私たちの地域の液状化」と題して液状化のメカニズムと被害、液状化しやすさマップの見方などを学びました。この地域の宿命ともいえる液状化とは、その特性を知って上手につきあうほかないようです。

話は、アルジェリアの道路建設にまつわる経験談、現在携わっておられる東日本大震災の復興に関する話題へと広がり、興味の尽きない2時間でした。(事業部)



講師の小野寺さん

県内河川探訪「西蒲原の河川」開催しました

11月2日(土)9:00～17:00 参加者：22名

秋晴れの日、西蒲原の河川を巡りました。大通川放水路の川の立体交差、西蒲土改の揚排水集中管理室、干拓地の水位を海面下で維持している鎧漕排水機場。榎木酒造の大ケヤキに、水害時の食料にもなったエノキ。身近な所で思わぬ発見が一杯です。

お昼は越後新川まちおこしの会のみなさんと交流し、西川・新川立体交差、新川右岸排水機場公園などを案内していただきました。最後に立ち寄ったのは宝光院。友の会理事の解良さんの「横田切れ考える柱」の解説に引き込まれました。形で残すだけでなく、語り継ぐ事の重要性が再確認できました。

解良さんの解説は、大河津分水双書第10巻に収録されています。宝光院へも是非訪ねてみてください。(事業部)



西川新川立体交差



宝光院

庭木剪定を実施

11月9日(土)14:00～16:00

参加者：12名

今年2回目の庭木の剪定を行いました。ツゲやもみじ、アジサイの刈り込み、密生した枝の間引きなどを行いました。(支援部)



釜石の奇跡に学ぶ 講演会

東日本大震災の津波を生き抜いた約3000人の児童を教えた片田敏孝教授の講演会が開催されます。

先着600名・参加無料

日時：12月15日(日)13:00～15:00

場所：新潟市中央区 ANA クラウン プラザ ホテル

申込：FAX025-282-3371 住所/氏名/電話番号明記/建設コンサルタンツ協会北陸支部へ



松山市「宮本武之輔を語る会」に参加します

11月24日(日)に松山市で開催される「宮本武之輔を語る会」に、宮本武之輔を偲び顕彰する会のお招きにより、早川理事長と樋口理事が参加し、講演してきます。

基調講演：早川典生「技術者宮本武之輔 その為した仕事と意思の丈を語る」

記念講演：樋口 勲「新潟の人々に映った宮本武之輔」



団体会員
ご紹介

我ら大河津分水応援隊！

愛される会社を目指して頑張っています

株式会社 鈴木組

初めまして、私は、株式会社鈴木組の代表取締役の鈴木米昭と申します。当社は法人化してから25年ですが、個人で事業を始めたのを含めると50年以上になります。

先代の社長より事業を引き継ぎ、土木工事を主として、上下水道工事やガス供給管工事等のライフラインの新設・変更及び修繕を行い、地域に貢献してきました。

現在は公共事業が全体の半分以上の割合を持っておりますが、近隣に住まれる方からの民間工事にも積極的に受け、近隣からも愛される会社となれるよう頑張っております。

当社は旧燕市に本社があり、立地的に信濃川や大河津分水路に関連するような工事を受注することはできませんでしたが、今後は関連工事が発注される際に、何かお手伝いのできたらなと思っています。

NPO 法人信濃川大河津資料館友の会の会員のみなさまには、大変ご苦勞をおかけしております。役員の皆様や会員の皆様のますますのご活躍を期待しております。今後ともよろしくお願いたします。

＜編集後記＞ 街の真ん中のせいか、メディアシップ最上階からの眺めは他と違って見えて新鮮です。萬代橋を中心に広がる街は信濃川と同じ高さ。東日本大震災の後、あの津波が新潟を襲ったら新潟地震の津波被害どころではないのではと、萬代橋を渡るたびに感じていました。関克己さんの講演をお聞きしてから、この街の津波に対するハード・ソフトが一層気になります。ハリケーン・サンディやフィリピンの高潮も気掛りです。来年は新潟地震から50年。新潟の防災を捉えなおす良い機会です。(n)

＜事務局連絡先＞

〒959-0123 燕市大川津 1215-7 TEL 090-2673-6596(事務局長)、090-1996-1256(事務局)、FAX 0256-97-3682

e-mail ohkouzu_tomonokai@yahoo.co.jp

<https://www.facebook.com/ohkouzuTOMO/>